

茨木市立東中学校 学力向上ステップアップ計画

平成 23 年 5 月作成

1. 生徒の状況及び課題

学習事項の定着について

昨年度の全国学力・学習状況調査では 4 テスト（国語 A・B、数学 A・B）とも良好な結果であり、数学 B（活用）については特に良好な結果であった。

国語では、以下の点についてさらに取り組んでいく。

- ・「言語についての知識、理解、技能」の育成
（漢字の反復練習や家庭学習課題の工夫など）
- ・「書く能力」を高める工夫
（作文指導や平素の授業で主・述の関係を明確にする等を意識付ける）
- ・「読む能力」（資料から読み取ったことを、自分のことばで表現する力）の育成
- ・発表や創作の機会を増やし、生きた国語の能力をつける
- ・「国語好き」を増やす取り組みをしつつ、学習課題に取り組むという両輪の指導

数学では、以下の点についてさらに取り組んでいく。

- ・毎回の授業で反復練習をどの学年でも続けていく。
- ・立体の問題など、実際教科書などからは視覚で捉えにくい問題については、教具や実物を見せたり、触れ合わせたりするなどしていく。
- ・「文章を読み、解かないとできない問題」については、最初から諦めることのないよう苦手意識を払拭できるように授業で取り組んでいく。

学校全体として、授業規律に対する取り組みを生徒会や生徒指導推進委員会を中心に呼びかけ、落ち着いた環境で学習できるクラス集団づくりに取り組む。

家庭学習では、授業の復習など勉強の仕方を伝え、各教科の宿題をしっかりとやってくることを指導する（家庭学習とつながった授業）。

生徒一人ひとりを理解し、個々の特性に合った学習ができるよう工夫する。

「ゆめ力」・「自分力」・「つながり力」・「学び力」の育成について

これまでの3年間（茨木っ子プラン 22）で、9教科の授業の中で4つの力（「ゆめ力」・「自分力」・「つながり力」・「学び力」）の育成の取り組みが進んできた。昨年度の全国学力・学習状況調査では、「将来の夢や目標を持っていますか。」に当てはまるという生徒の割合は全国平均より上回っている。また、家庭での学習時間については、「一日に3時間以上」の生徒の割合は全国平均よりも高く、「30分より少ない」生徒の割合は全国平均よりも少ない。

今後、日々の授業や活動の中で、授業規律に対する取り組みを強化して、自己肯定感や人権意識を高めていきたい。

2 . これからの3 年間の取り組みについて

目標設定

【長期目標】 仲間とともに学び、元気で生き生きした生活を送る生徒を育成する。

【具体的目標】

- * 学び力
 - ・わかりやすい、学習意欲を高める授業づくりと生徒の到達度に応じた授業の工夫をする。
 - ・自分で計画的に家庭学習する力を身につける。
 - ・授業を受けるモラル（生徒力）を育成する。
- * ゆめ力
 - ・将来に対する展望・夢・目標を抱ける力を身につける。
 - ・仲間づくりや地域の方々とふれあう場などを通じ、様々な価値観にふれ、自分の生き方を考える力を身につける。
- * つながり力
 - ・人間関係の中で、自分で判断したことを行動に移すことができる力を身につける。
 - ・自分や他人を大切に思い、行動できる力を身につける。
- * 自分力
 - ・周りに流されず、自ら判断して行動できる力を身につける。
 - ・自分を大切にし、自尊感情を高める。
- * 体力
 - ・自分の体のことをよく知り、できることを知ること、体力向上をめざし健康的な生活を送れるようにしていく。
 - ・積極的に運動に取り組み環境づくりをし、運動する機会を増やしていく。

検証方法

- 【検証方法】
- A 全国・府学力学習状況調査
 - B 授業振り返りシート
 - C 授業ルール10カ条振り返りシート
 - D 教職員による平素の指導・観察（定期考査、提出物点検、授業観察等）
 - E 保健室の利用状況

- 【数値目標】
- ・「学校に持って行くものを確かめる」と回答する生徒の割合を増やす。（Aによる）
 - ・「家で学校の授業の復習をしますか。」など家庭学習について良好な結果を回答する生徒の割合を増やす。（Aによる）
 - ・「人が困っているときは進んで助ける。」と回答する生徒の割合を増やす。（Aによる）
 - ・「学校の規則を守っていますか。」で「当てはまる」と回答する生徒の割合を増やすなど、授業モラルや学習意欲を向上させる。（A・B・Cによる）
 - ・各授業で、発表する機会を多くし、「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。」で、肯定的な回答をする生徒の割合を増やし、自分に自信を持って、発言や行動する生徒を増やす。（Dによる）
 - ・けがや体調不良で保健室を利用する生徒を減らす。（Eによる）

ゆめ力・自分力・つながり力・学び力・体力等について(指導の方法・観点など)

<p>ゆめ力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容と日常生活とを結び付けて、未来や自分に置き換えて考える。(国語) ・社会的課題を自らが解決すべき課題としてとらえ、自らの将来と重ねあわせて考える。(社会) ・将来、どんな生き方をするか・どんな家庭をつくるかをイメージしながら保育分野を学習し、3年生全員が保育園実習をする。(家庭) ・2年次に My Dream というタイトルでスピーチ大会を実施する。2年生全員が、自分の夢について英語でスピーチに取り組む。(英語) ・歌詞の内容から生きていく中で、大切なことを考える(音楽)
<p>自分力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないことを「わからない」「知らない」と言える環境づくりに努める。 ・自分自身の生き方や考えと指導内容を結びつけるために、生徒の発言を軸に授業を展開できるように努める。(国語) ・歴史のプリントに自分の意見・感想を書き、考えることができるように工夫する。(社会) ・被服実習で、毎回到達目標をはっきりさせ、チェックポイントを設定し、達成感を持たせる。(家庭) ・自分の言葉で自分のことについて語る。(ノートに書く)(英語) ・新出文型で、自分の生活に関してならどう言うのかを考え、それを英文にすることで、自分力につながる自信をつける。(英語) ・音楽的表現を具体的に指導し確かな自己表現力をつける(音楽)
<p>つながり力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分力の続きとして、各自考えたものを、班で黒板に書いたりして交流できるようにする。(国語) ・生徒同士が、教えあう場面・相談しあう場面・発表の場面をつくる。(社会) ・できるだけ少人数の集団で実習を行うことにより、人とのかわりあいの中で観察・実験を実施する。(理科) ・能力別グループ学習や、グループ活動などを多く活用することにより、教え合ったり、協力し合ったり、時には競い合ったりする力をつける。(保健体育) ・食物分野では、1グループ男女別4～5人で役割分担をし、協力しながら調理実習をする。(家庭) ・平素の授業の中で、ペア・チームでの activity を多く取り入れ、友人との共同学習の機会を与える。(英語) ・個々が確かな表現力を出し合うことが豊かな合唱づくりになることを実感させる。(音楽)

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけでなく、他者のことを考えさせる。集団(学級・学年・学校)を意識させる。(社会)
学び力	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書タイムで、読書による知的興味を持たせる。 ・家庭学習の課題に読書を出したり、夏休みに読書感想文を課題に出したり、授業の中で本の紹介をするなど、読書量を増やす取り組みを行う。(国語) ・作文指導を通して、仲間の思いや考えをお互いに認めあえるようにする。(国語) ・授業の「準備」をきっちりさせる。取り組む課題を、簡単なものから徐々にレベルアップさせる。「10問テスト」などで達成感を味あう。(社会) ・生徒が発言する機会を多くもっている。「答」だけを言うのではなく、「なぜ」とか「どうやって求めたか」などの質問を行い、いつもどのようにして解いたのかをふり返らせるようにする。(数学) ・教師や生徒から聞き取ったことをノートに書く。説明内容を自分なりにまとめてノートに書くなど、板書事項を写すだけの学習にならないようにする。(理科) ・課題カードなどを利用して、授業の始めに自分の目標を明確にさせ、授業への意欲を高める。授業の終わりには、自己評価や相互評価を行うことにより、次への意欲を高める。授業への意欲を高めることで、自ら学ぶ力を育成する。(保健体育) ・自分の家庭生活(衣食住)に興味をもたせ、生活の自立をめざす。(家庭) ・新出単語や本文を、授業までに自主的にノートにまとめ、日本語訳を考えてくることで、自ら学ぼうとする力をつける。(英語) ・新しい文法項目について、練習プリントで理解できているかどうかを確認し、その後、ワークブックの宿題で定着を図る。(英語) ・1セクション終わるごとに宿題を課し、確実に点検する。これを3年間続けることにより、基礎力を構築していく。(英語) ・自主的にメモをとったり書きこみをさせる主体的な学習活動を促す。(音楽) ・公民の授業を社会生活をしていく上で、「生きた力」となるよう工夫する。(社会)
体力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめに補強運動や筋力トレーニングを取り入れ、それを3年間継続的に行うことにより、基礎体力や体力向上につなげる。(保健体育) ・昼休みにボールを貸し出すことで、運動場へ出て活動する機会を

	<p>作る。(生徒会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の充実を行う。 ・年に1回、体力診断テストを行い、自分の体力を知り、体力向上への意欲づけをする。
--	---

3年間の取り組みの計画(18の具体的な取り組み)

1.『主に、「学び力」向上のために』

- (1)一定期間(各学期に1週間)の公開授業と、年3回の校内授業研究会を実施する。
- (2)各教師が「授業振り返りシート」を年一回は実施し、まとめを交流することで授業力向上を目指す。
- (3)「授業ルール10カ条振り返りシート」を各学期に実施する。生徒会ともタイアップして取り組んでいく。
- (4)学習に必要なものを持ち帰らせるようにする(PTAの協力を得る)
- (5)学校の休みの日などを利用し、家庭学習を計画的にできるように課題を課す。
- (6)HIT(Higashi Intensive Time テスト前学習)を年7回実施する。
- (7)「e-learning」を積極的に活用する。

2.『主に、「ゆめ力」育成のために』

- (8)授業の中で、自分のことを語ったり書いたりする機会を多く作る。
- (9)職場体験学習を充実させる。
- (10)1学年からの進路学習を充実させ、自分の将来について考える。

3.『主に、「つながり力」育成のために』

- (11)総合的な学習の時間では人権を基礎にテーマ設定し、取り組みを進める。
- (12)生徒会が中心となり、生徒同士がつながる取り組みを実施していく。
- (13)集団づくりの取り組みを充実させる。教科や道徳、特活、総合的な学習の時間を通して、生徒のつながりをつくっていく。

4.『主に、「自分力」育成のために』

- (14)行事に主体的に取り組ませ、評価していく。
- (15)人権教育・道徳教育を充実させ、自己肯定感や規範意識を高める。

5.『主に、「体力」向上のために』

- (16)自分の体を知り、健康状態を把握して、元気な生活を送れるようにする。
- (17)保健だよりを通して、家庭にも呼びかけていく。
- (18)ボールの貸し出しを利用しやすくして、昼休みにグラウンドに出ることを推奨する。

推進体制

